

平成27年度

「大学と保護者との連絡会」

取材レポート

取材担当：京都市大学新聞会



今年も全国各地で、後援会と大学の共催による「大学と保護者との連絡会」が開催されました。平成27年度は、10月3日に行われた世田谷、横浜、等々力の3キャンパスにおける連絡会をもって全日程を無事に終了。3キャンパスでの連絡会に参加された保護者の皆様のコメントを交え、当日の様様をご紹介します。

毎年、教職員が各地に出向いて、卒業生(校友会支部)の皆様にもご出席いただき、大学のビジョンや新しい取り組み、学生生活の様子、最新の就職状況などを説明するとともに、保護者の方々からのさまざまな疑問・質問に回答する、秋の恒例行事「大学と保護者との連絡会」。保護者からは、「大学のカリキュラム内容や就活への取り組みを直接聞くことができた」「子どもが学ぶキャンパスの雰囲気を感じて良かった」などと、毎回ご好評をいただいております。

平成27年度は、9月5日の水戸、さいたま、長野、静岡、広島の前5会場スタート。全国17会場での開催を終えた後、10月3日、世田谷、横浜、等々力3キャンパスで掉尾を飾りました。この日の東京・横浜地区は、秋らしい爽やかな好天に恵まれ、各キャンパスとも数多くの保護者の皆様で賑わいました。



新学長の就任や新しいキャンパス、学生と企業との共同研究なども紹介されました

世田谷キャンパス会場では、知識工学部の連絡会が午前9時半から、工学部は午後0時半から受付を開始。30分後から学科の主任教授、教務担当教員、就職担当教員らによる各学科説明会、学年別説明会と懇談、その後、希望者に対する個人面談が行われました。

知識工学部自然科学科の学科説明会では、同学科の女子学生がキックマン飲料と共同開



受付開始と同時に多くの保護者が来場



説明会後にちょっと一休み



学科別説明会ではパソコンを使って分かりやすく説明

発した飲料水「花つぼみローズウォーター」の話題に触れ、飯島正徳主任教授は「本学のブランド力向上に貢献」と絶賛。就職担当も務める同教授が「都市大は就職・キャリア支援策が充実しており、大手企業に就職する学生も数多い。しかし今の学生はいったん自分の道を決めたら他を見向きもしない傾向がある。もっと選択の幅を広げるべき」と話すと、保護者の多くが頷いていました。

また工学部原子力安全工学科の学科説明会では、三木千壽新学長の就任や、二子玉川に夢キャンパスが開設されたことなど大学全体の新しい動向を横堀誠一主任教授が紹介。カリキュラムやキャンパスライフ、主な就職先などを松浦治明准教授が説明しました。その後の質疑応答では、成績評価方式の一つGPA(Grade Point Average)がどのように使用されているのか質問があり、大学側は、大学院推薦入試の候補者選抜などに使われると回答しました。

その後の学科・学年別懇談会で、機械システム工学科1年の保護者の教室では、工学を勉強することの意味やエンジニアの社会的意義などについて話し合われました。



学生に対する細かい支援策を紹介 外部講師による講演会も初開催

環境情報学部の改編により、環境学部とメディア情報学部との3学部体制となった横浜キャンパスには、現在、環境情報学部4年生と、環境学部、メディア情報学部の1～3年生が在籍しています。このため、午前中は環境学部とメディア情報学部、午後から環境情報学部の説明会を行いました。

午前10時から始まったメディア情報学部の学部・学科説明会では、中村雅子メディア情報学部長が、15年度から



学修・大学院進学について説明する広田教務委員長

スタートした本学独自の国際人育成プログラム「京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)」の概要など、全学的なトピックスを紹介し、「本学部では、技術と